

Campus News

静岡理工科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2017

2

Vol.49

新たなコミュニケーションマークを制定!!

静岡理工科大学では、静岡県唯一の私立理工系総合大学として「研究力」をブランドコンセプトとし、今回コミュニケーションマークを制定しました。

はじまりを、つくる



RESEARCH!

特集

- 松崎太佑さん(平成17年度卒業生)が、卓球女子日本代表(団体)のオリンピック銅メダル獲得に貢献!!
- 静岡航空資料館がリニューアル



静岡理工科大学



学長挨拶

はじまりを、つくる

学長 野口 博

静岡理工科大学の持つべきブランドとして、「研究力」を設定しました。「研究力」は、理工系大学が持つ特徴の一つとして位置付けられます。平成29年4月の静岡県初の建築学科設置により、理工系分野を網羅する、静岡県唯一の私立理工系総合大学としての「研究力」と、実践的な教育を併せ持つ大学としての特色を前面に打ち出すものです。

この「研究力」を中心軸としたブランドコンセプトでは、「研究力」が、図1に示すような5つのキーワード（地域貢献、産学官連携、若い力、専門性、人間力）の基礎となり、以下の特色を持った大学として5年～10年後を目途にブランドの定着を図っていきます。



図1. 本学のブランド力

- ①「研究力」を活かした産学官連携や地域貢献に基づく、地域に愛される大学
- ②「研究力」に基づく高い専門性を活用し、若い力（学生）を育てる大学
- ③「研究力」をベースとした教育や研究活動を通じて、人間力を醸成する大学
- ④「研究力」を基礎とした特色を持つ、地域に根付く静岡県内唯一の「私立理工系総合大学」

そして、本学の存在価値を高めるために、「研究力」をブランドコンセプトとしての、図2に示す新たなコミュニケーションマークとキャッチコピー「はじまりを、つくる」を制定し、今後の広報に活用していきます。

図3に示すコミュニケーションマークのモチーフに示すように、形状は、研究力の地面に聳え立つ産学官の連携としての3つの建物群をイメージしています。図形の見え方からは、左端の「S字」としての「静岡」を、中央部分の「1」から「唯一」を、建物群の屋根から飛び立つ「未来を照らす」からの「輝き」を、そして建物の側面からの「ひととひとが向き合う姿」のように、多面的な意味を含むモチーフによるコミュニケーションマークとなっています。

はじまりをつくる静岡理工科大学に是非ご期待下さい。

はじまりを、つくる



図2. コミュニケーションマークとキャッチコピー

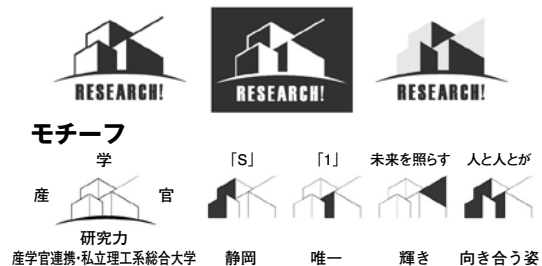


図3. コミュニケーションマークのモチーフ

遠州灘

4年生は卒業研究発表の時期となりました。

この時期にいつも考えることがあります。もしも1日15分でもあれをやっていたら、ここまでで何時間積み重なったのだろうと。卒業研究も日々の積み重ねがあるかないかが、数分間の発表でも、とても良く現れます。学生達には是非、日々の「小さなやらまいか」を大切にしてほしいと思います。(M)



松崎太佑さん(本学卒業生・浜松市出身)が 卓球女子日本代表(団体)の オリンピック銅メダル獲得に貢献!!

本学卒業生の松崎太佑さん(理工学部情報システム学科、平成17年度卒業)が、昨年8月に行われたリオデジャネイロオリンピックに、卓球女子日本代表のコーチとして臨み、団体戦の銅メダル獲得に貢献しました。松崎さんに大学時代を振り返りながら、オリンピックなどについてお話を伺いました。

——リオデジャネイロオリンピックでの銅メダル獲得おめでとうございます。

ありがとうございます。

——今回の結果についての率直な感想はいかがですか。

やはり金メダルを目指していましたので、準決勝で負けた悔しさとメダル獲得ができた嬉しさの半分半分ですね。

——松崎さんは卓球女子日本代表のコーチを務められています。主にどのようなことをされていますか。

伊藤美誠選手の専属コーチをしています。普段の練習メニューの組み立てやアドバイス、ベンチでのコーチングが主な仕事です。

——コーチを務める中で、どのような努力や工夫をされていますか。

アンテナを高く持ち、色々な視野からとにかく日々勉強をしています。最近でも日本オリンピック委員会が主催する「ナショナルコーチアカデミー」に参加し、異なる競技のコーチと共に、国際基準のコーチング技術を学びました。

——静岡理科大学へ入学をしたきっかけは。

プログラミング技術に興味があったことと、家から通える場所であったからです。

——大学時代にも、卓球をやれていましたか。

もちろんです。大学時代は、早朝にアルバイトをし、日中は大学、夜に卓球のコーチをしていました。

——大変ではなかったですか。

卓球が好きだったので、苦には思いませんでした。大学自体は、自由な雰囲気だったので、好きなことを自分の責任の中でやれました。

——本学での印象に残っている思い出はありますか。

卒業研究です。外部の会社の簡単なデータベースを作製したのですが、一から自分で勉強し、作るという事が初めてだったのでとても良い経験になりました。

——本学で学んだことで、現在活かされていることはありますか。

パソコンを常に使用していたので、パソコンでの情報処理方法を学べたことです。スポーツでも情報戦略が重要で、



まつ ぎき たい すけ

【PROFILE】松崎 太佑さん

静岡県立浜松商業高校卒業後、本学に入學し、平成18年3月に卒業。地元金融機関に就職した後、卓球指導者の道を目指し、プロの指導者となり現在に至る。株式会社T.T.bibi所属

練習内容や試合の得点・失点の場面、対戦相手の対策などを行うので、その情報を処理するための技術が活かされています。

——現在の在校生の後輩や高校生へのメッセージをお願いします。

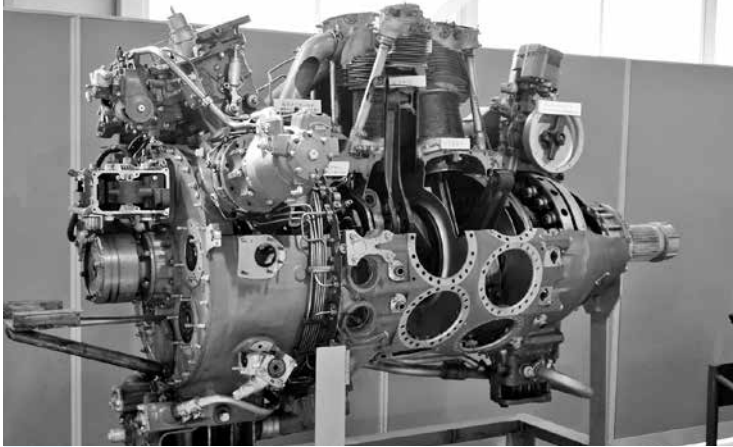
努力はすぐに成果にはならないかもしれませんが、いつかは報われます。まずは好きなこと得意なことやりたいことを見つけ努力しましょう!!

——それでは最後に、松崎さんの今後の目標を教えてください。

2016年の卓球日本代表は男女とも、リオデジャネイロオリンピックでメダル獲得、世界ジュニア選手権で金メダルを獲得しました。東京オリンピックでは本気で金メダル獲得を目指しています。応援よろしくお願いします。

——是非、成し遂げてください。本学関係者一同応援しています。ありがとうございました。

松崎さんは、日本代表コーチとして、忙しく世界各国を飛び回り、大会に臨んでいます。今回のインタビューはその合間を縫って対応いただきました。



〈開館情報〉

静岡県牧之原市坂口2053番地の1

○水曜日、木曜日

10:00～16:00(事前申込み制)

○開館日の10:00と13:30に、見学に来られた方々へ館内の紹介をさせていただきます、引き続き館のご案内をいたします。

○見学時間はおよそ40分程度です。

〈予約方法〉

資料館ホームページ

(<http://www.sist.ac.jp/about/aeromuseum/index.html>)から開館日をご確認いただき、事前予約をお願いします。

※当日の申込みはお受けしていません



静岡航空資料館がリニューアル

本学の静岡航空資料館(牧之原市坂口)では、大正・昭和期に活躍した航空関連エンジンやプロペラなどの一般公開を開始しました。

静岡航空資料館とは

静岡航空資料館は、平成25年11月に、静岡県の航空に関する歴史を若い世代に伝え、また、多くの人々に航空機や航空輸送への興味を深めてもらうために、静岡理科大学坂口実験場内に、飛行機に関する機材や教材を集め、設立しました。

交通文化遺産である各種エンジン、模型などの展示開始(平成28年8月)

この度、西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)様が管理されていた旧交通科学博物館(大阪弁天町)に収蔵されていた、歴史的な交通文化遺産である大正・昭和期に活躍した航空関連エンジンやプロペラなどを借り受け、約55点の常設展示を始めました。

本資料館には、歴代開発された著名なピストンエンジン10基(当館所蔵エンジン1基を加えて11基展示)、ジェットエンジン3基、そしてロケットエンジン2基など貴重なエンジンを展示しています。その中には第二次世界大戦後、日本で初めて開発されたジェットエンジンや、人類が初めて水平飛行で音速を突破したロケットエンジンもあります。航空機の進歩の過程を語る、航空機の進歩の過程を語る、これらのエンジンを一同に見ることができる資料館等は国内にはありません。



その他、静岡県の模型メーカーの株式会社タミヤ様から同社製プラモデル約100機の寄贈を受け、静岡県の模型産業コーナーを設けています。一般公開を行っていますので、「空を飛びたい」、「速く飛びたい」という人類の夢を次々に叶えていったエンジンの歴史などを是非ご覧ください。

商工団体との連携協定の締結について

本学は、産学官連携により、地域における様々な取り組みに参画してきました。これまで、本学と袋井商工会議所・浅羽町商工会は組織的な協力関係を、磐田商工会議所・磐田市商工会とは個別的な協力関係の中で様々な活動を行ってきました。今後、いままで以上に双方が協力し、地域経済の振興・発展、暮らしやすい地域社会の実現に貢献し、人材育成及び学術振興に寄与することを目的に平成28年9月21日(水)、連携協定を締結しました。連携事項として以下の5項目を挙げています。

本学は、近隣企業との連携強化を図るため、この連携協定をきっかけに更なる交流を深め、学内における教育・研究だけでなく、地元産業界と一緒に地域貢献を進めてまいります。そして、本学の「研究力」を広く地域の皆さまにお伝えしていきます。

〈連携事項〉

- 1 大学の「知」を活かした産業・観光振興、地域づくり、国際交流等に関すること
- 2 教育・文化の振興、生涯学習の推進に関すること
- 3 学生参加型の産業・観光振興など、市内の経済発展に関すること
- 4 学生参加型の地域づくり・まちづくり・伝統行事など、地域活性化の推進に関すること
- 5 相互に連携協力することが必要と認められる事項に関すること



(5機関の代表者の皆様：中央は野口学長)

硬式野球部エース 黒川大輝さん(電気電子工学科2年)が 2連続完封劇を演じる!!



平成28年度静岡学生野球秋季リーグ戦において、本学硬式野球部のエース黒川大輝さんが2度の完封試合を演じ、本学の今シーズン2勝に大きな貢献をしました。

2年生右腕の黒川さんは10月4日の常葉大学富士戦と、10月10日の静岡大学戦に先発。得意のチェンジアップを駆使しながら、要所を締めるピッチングを見せ、2戦連続で完封勝利を挙げました。

また、黒川さんの躍進は、その2試合に留まらず、続く試合でも8回2/3まで、相手に得点を与えず、連続28回2/3

を無失点に抑えました。もちろん、この簡単に成し遂げられない立派な結果は、その他野手8名の守備の助けがあり、チームとして得た成果であることは言うまでもありません。

最後に、シーズンを通して、決して納得のいく結果を残せたとはいえない硬式野球部でしたが、1、2年生中心のチーム編成の中、次のシーズンに繋げる経験値を得ることができました。

来シーズンの静岡理科大学硬式野球部の活躍に乞うご期待ください!!



硬式野球部ホームページ： <http://sistbaseball.web.fc2.com/>

サークル間交流会

7月10日(日)、サークル間交流会を開催しました。参加した37名の学生たちは、バーベキューやビンゴ大会などのレクリエーションを楽しみました。学生たちは所属するサークルや団体の垣根を越えて交流を深め、今後につながる人脈づくりを図りました。



オープンキャンパス

7月31日(日)・8月21日(日)・9月11日(日)の3日間、本学にて「オープンキャンパス」を開催し、高校生722名、保護者508名の延べ1,230名の皆様にご参加いただきました。学科ごとに体験型プログラムや展示ブースを用意し、多くの皆様に本学の研究内容を紹介しました。また、入試対策講座や保護者の方への説明会を実施し、本学への理解を深めていただきました。

他にも本学教員による模擬授業を行い、参加いただいた高校生には、普段の高校とは違う大学の授業の雰囲気を感じていただきました。



お理工塾 夏のわくわく体験工房

8月14日(日)、本学にて「お理工塾夏のわくわく体験工房」を開催しました。近隣の小学生約170名が参加し、ロボット作りやシャボン玉実験など、夏の自由研究や今後の勉強に活かすことができる9つのテーマに分かれ、体験をしました。このイベントには、本学の学生サークルや研究室だけでなく、掛川工業高等学校の生徒の皆様にもご協力いただきました。



地域学

8月18日(木)、本学にて「地域学」の発表会を開催しました。「地域学」は、袋井市と本学の包括連携協定に基づき、学生たちが将来の袋井市のまちづくりについて考える講義で、約30名の学生が受講しました。学生は、5つのグループに分かれ、市内の名所を訪ねるフィールドワーク等を行い、袋井市の現状を把握した上で、今後の袋井市のあるべき姿について、袋井市職員の皆様のアドバイスを受けながら、具体的な政策を考え、原田袋井市長に対して提言を行いました。



市民体験入学

8月27日(土)、本学にて「市民体験入学」を開催し、当日は209名の地域の皆様にご参加いただきました。午前中の全体講義は、広島大学の長沼毅教授を招き、「眠れないほど面白い科学のはなし」と題してご講演いただきました。午後は、座学講座では本学人間情報デザイン学科の富田教授が、体験講座では機械工学科の益田特任教授、電気電子工学科の本井講師、物質生命科学科の小土橋講師、コンピュータシステム学科の長尾講師、人間情報デザイン学科の友次教授、建築学科設置準備室の協坂教授がそれぞれ講義を行いました。また、「近隣高校生の活動紹介」として、袋井商業高等学校・掛川工業高等学校の生徒の皆様からも話題提供をいただきました。ご参加いただいた皆様からは、良い知的刺激を受ける良い機会となったという意見を多くいただきました。



HACCP導入研修会

9月10日(土)、本学にて「HACCP導入研修会」を開催し、34名の皆様にご参加いただきました。HACCP(ハザップ)は、2020年に義務化される食品衛生のための製造工程管理システムで、本研修会では、その基礎から導入事例にいたるまでを解説しました。当日は、名古屋学芸大学の岸本満教授、東海北陸厚生局健康福祉部食品衛生課の中屋剛課長、食品施設デザイン株式会社の小嶋克人代表取締役社長にご講演をいただきました。また、本学物質生命科学科の宮地准教授が講師となり、グループワーキングも実施し、参加者の皆様は、この製造工程管理システムについての理解を深めました。

大学祭

10月22日(土)、10月23日(日)の二日間、本学大学祭実行委員会主催の「大学祭SISTIVAL'16」を開催しました。「CHANGE～千変万化～」をテーマに、Shout it Outのスペシャルライブや大道芸ロッキィさんのパフォーマンス、移動動物園、ビンゴ大会などのイベントなどを行いました。また、2日目には、本学同窓会主催の「ホームカミングデー」も開催し、多くの卒業生に会場いただきました。例年になく多くの皆様に来場いただき、大変盛況のうちに大学祭は終了いたしました。



地域創成フォーラム

11月29日(火)、ホテルクラウンパレス浜松にて、「地域創成フォーラム」を開催し、当日は197名の皆様にご参加いただきました。特別講演としてヤマハ発動機株式会社の滝沢正博取締役常務執行役員新事業開発本部長に、「ヤマハ発動機における新事業開発の取り組み」と題してご講演をいただきました。また、本学教員と静岡県の試験研究所の技官による研究事例発表やパネル展示による研究紹介も行いました。当日は地域企業の多くの皆様に来場いただき、本学教員との交流を通して、共に地域の活性化を目指すきっかけの場となりました。





市民映画で袋井の魅力を発信します

ふくろい市民映画製作実行委員会 実行委員長
袋井市教育委員

伊藤 静夫さん

現在、袋井市では地元出身の池田千尋さんを監督に迎え、まちや地域に住む人の魅力を発信しようと、「市民映画」を製作しています。

この映画製作にあたり、静岡理科大学を撮影場所としてお借りしたり、多くの学生の皆さんにお手伝いを戴くなど関係者の皆さんには大変お世話になり、感謝申し上げます。特に学生の皆さんには授業や遠方からの通学などで忙しい中、大変熱心に取り組んでいただきました。更に、当初依頼していた映画製作に係る撮影補助や編集補助以外に、ワークショップに参加した小中学生の相談相手や見守りなどにも携わっていただき、子供たちは「素晴らしい先輩と過ごす体験ができたことで有意義な夏休みになった」と大喜びです。子供たちに代わってお礼を申し上げたいと思います。

さて、市民映画は今、池田監督と制作会社で編集作業を行っており、平成29年3月の完成を目指しております。完成映画は、袋井市の新たな魅力とたくさんの人たちの温かい気持ちが詰まった極上な作品になることと思います。

機会がありましたら、是非上映会に足をお運びください。



地域の大学に改めて感謝

袋井市立袋井東小学校 校長

寺田 敦朗さん

私は、昨年4月に本校に赴任するまで、袋井生まれの袋井育ちでありながら、本校の歴史について何も知りませんでした。用行義塾に始まり、現在も刮目教育として地域に息づく本校の歴史を初めて知ったとき、深い感銘を受けたものです。その本校の歴史を、最も熱く語ってくださったのが、地域の長老ではなく静岡理科大学の小栗勝也先生でした。先生は本校の耐火鉄庫に長年眠っていた古文書を発掘し、当時の学校の姿を具体的な形で読み解こうと研究されています。私以外にも、本校に勤務しているながら本校の歴史的価値を知らない職員が多かったため、昨年夏には先生を招いて職員向けの歴史講座を開いていただきました。この他にも、価値ある歴史が地域にはきっと眠っていることでしょう。小栗先生がそうしたものに光を当て、広く世界に発信して下さっていること、それも地域に根ざす理工科大の存在があったればこそと、重ねて感謝しているところです。

同窓会
だより

ホームカミングデーの開催

平成28年10月23日(日)に「第16回ホームカミングデー」を開催しました。当日は、卒業生やご家族、教職員など約400名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。



同窓会LINE@の開設について

同窓会ではこれまでに「同窓会ホームページ」及び「同窓会フェイスブック」を開設し、多くの方にご覧頂いております。更に本年度からは「静岡理科大学同窓会公式LINE@」を立ち上げました。

今後も活発に同窓会の情報を発信しますので、是非ご利用ください。また、同窓生間の交流の手段としてもご利用ください。

同窓会LINE@ ID「@umw3102n」※ご利用には、LINEのご利用登録が必要になります。(無料)

「LINEの友だち追加」から上記IDを検索するか、右記のQRコードを読み込んでください!

(同窓会facebook <https://www.facebook.com/sist.dousoukai>)

(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>)



後援会
だより

父母懇談会の開催

10月22日(土)に「父母懇談会」を開催し、約200名の方が参加されました。全体会では伊東後援会長から御挨拶をいただきました。本年度、後援会からの御支援により学内に新たにバーベキュー場が整備され、キャンパスライフの一層の充実につながっていくと感じております。さらに、臨床心理士でもある静岡大学の太田裕一准教授をお招きして「子どものこころと大人のまなざし〜アニメからみる親子関係〜」と題したご講演をいただきました。子どもの心の変化や親子の関係性について、アニメの映像を使って説明していただき、来場された方々も熱心に耳を傾けていました。午後からの「個別面談」には、約70名の保護者が参加され、情報交換を行いながら、お話を受けた教員にとっては貴重な御意見を伺うことができ、大変有意義な機会となりました。



授業の紹介



本実験は、物質生命科学科3年後期にバイオ食品化学コース学生の必修科目として開講しています。開講期間の後半で遺伝子工学実験の基礎を学びます。まず、各学生自身の口腔粘膜剥離細胞を採取



し、そこからDNAを抽出します。充分量の細胞を採取できるとDNAの糸クズが見えるので一部を標本として持ち帰り、可能なDNAストラップに封入します。次に、各自のDNAから遺伝子増幅反応と酵素反応で、自分がお酒に強いかわるいの遺伝子型を判定してもらいます。最後に他大学ではほとんど行っていないALDH2遺伝子を解読し、ダブルチェックで遺伝子型の確認を行います。

3年生は20歳を迎えただけで自分がお酒に強いかわるいに関心が高く、楽しみながら実験を行っているようです。

担当教員：物質生命科学科 教授 常吉 俊宏・准教授 齋藤 明広

生体情報計測研究室(電気電子工学科)

おじゃまします。

本研究室は、電気電子、機械、さらに医学・看護分野を融合した生体医工学を専門としています。特に、計測対象者や、医療スタッフにとって負担なく、継続的な健康データを得られ、早期に体調変化をお知らせする新たな生体計測システムを開発しています。さらには医学・工学の連携により、それら技術の社会への還元を目指した臨床応用研究も推進しています。これまでに、衣服内蔵のウェアラブルリハビリ効果解析システム、さらに浴槽・トイレ・ベッド内蔵型ヘルスケアシステムを開発し、医学的有効性を実証してきました。学生は機器開発だけでなく、実際の医療・福祉現場に足を運び、社会の一員として課題解決に挑み、常に問題意識を持つことを大切にしています。



研究室訪問

第37回

研究室学生からひとこと

長谷川 翼さん (電気電子工学科4年)

私は浴室で全く負担なく心電図を計測し、疾病の早期発見や、入浴事故予防を支援するシステムを研究しています。現在は、計測機器の小型化や、体調解析プログラムの開発、さらには医療やスポーツ選手支援への有効性実証を進めています。日々研究室内みんなで意見を言い合い、また実際の医療現場におけるスタッフさんや患者さんたちと共に研究をする中で、現場の雰囲気や課題を直に感じ、少しでも役に立とうというやりがいを感じながら、活発に研究活動をしています。

研究室担当教員

本井 幸介先生

プロフィール

石川県金沢市出身。金沢大学大学院自然科学研究科修了、工学(博士)。金沢大学理工学域研究員、弘前大学大学院理工学研究科助教を経て、2015年4月本学理工学部電気電子工学科着任。金沢大学学部生時代より、一貫して生体計測や医療・福祉支援システムを研究してきました。研究室内で終わってしまうのではなく、地域の皆さんの安心に少しでも繋がるコトづくりになるように、学生と共にみんなで情熱を持って、積極的に人・社会と関わる活動を行っています。

入試広報 NEWS

静岡理工科大学の「すごい」を体感!

■「受験生サイト」の「SPECIAL MOVIE」で理工科大生の「すごい」をチェックしよう!

コンテンツ充実の「受験生サイト」なら理工科大の実力を視聴できます。

「SPECIAL MOVIE」では、「研究力」をベースにした「教育」の成果の一端として学生の成長を紹介。「研究室の挑戦」では、理工系大学の特色である「研究室」にスポットを当て、未来に役立つ研究を紹介。「学生Voice」では、本学で一段と成長した学生の姿をお伝えしています。また、建築学科の新設に合わせて建設が進む「建築学科棟 建設アーカイブ」もこちらで視聴できます。

その他、進路選択に有益な情報が満載。

本学受験生サイト (<http://www.sist.ac.jp/navi/>) なら、PCから、スマートフォンやタブレット端末から、見たい時にいつでも理工科大をご覧ください。



■「受験生サイト」がさらに使いやすくバージョンアップ!

WebサイトやTVCM、大学案内、ガイドブックなどで理工科大に関心を持ったなら、一度、本学キャンパスまで足を伸ばしてみませんか?

自然豊かな小笠山の麓にある本学は、理工系の研究や学習に集中できる静穏な環境です。周辺には遠州三山のひとつである法多山尊永寺、2019年にラグビーのワールドカップが開かれるエコパスタジアムやエコパアリーナがあります。

3月から開催する「大学見学会」では、本学の工学・理学・情報学と多岐にわたる研究室を巡りながら、私たちの未来や将来に役立つ様々な研究や新設の建築学科棟えお含めた様々な施設を体感することができます。

—進路イベントの日程【3月～6月】—

●大学見学会 3/22(水)、5/21(日)、6/18(日) 開催時間13:00～16:00

無料駐車場有、JR愛野駅南口より無料専用バス運行。



大学広報スタッフ リーダー 佐藤 南斗さん
(コンピュータシステム学科3年)



こんにちは!



私たちは静岡理工科大学学生自治団体「ヨクスル」です! その名の通り、静岡理工科大学を学生の力で「良くする」ために今年度から発足しました。

オープンキャンパスやキャンパス見学、市民向け公開講座などの受付、案内などを主な業務とし、またこれからの行事を一から企画、実施していくことを目標にしています。

ヨクスルでは地域の人や高校生、中学生とふれ合ったり、メンバー内で情報共有を行ったりすること、普通の学生生活では身につけにくいコミュニケーションなどといった社会で必要なちからを磨くことができます。

メンバー 23人、オープンキャンパス等をより楽しくするため、全力でバックアップし、有意義なものにしています。在学生の皆さん、是非ご参加ください。

2016年 夏のものづくり大会への挑戦

本大学では、ものづくり教育の一環として学生サークルによる「NHKロボコン大会」「鳥人間コンテスト」「全日本学生フォーミュラ大会」へ積極的に参加しています。これらの大会への挑戦として活動の様子をお伝えいたします。

「NHKロボコン大会」への出場

日本全国の大学が参加するロボットコンテスト「NHK学生ロボコン2016」が平成28年7月10日(日)に東京の大田区総合体育館で開催され、本学MachineCreator's Factory(通称M.C.F)が出場しました。大会に出場するために、「書類審査」と「ビデオ審査」を経て、全国24校が大会に出場しました。(本学は2009年以来、4回目の出場)

結果は、残念ながら予選敗退でしたが、部の再建から4年目で大会に参加できたことは、当部にとって大きな一歩となりました。

大会終了後には早速大会の反省点を洗い出し、次回大会で良い結果が出せるように、部員の意識を統一し、活動を継続しています。



M.C.Fホームページ : <http://www.sist.ac.jp/club/mcf/>

「鳥人間コンテスト」への出場

本学の鳥人間を目指す飛行機研究会(Sky Traveler)が、平成28年7月30日(土)、31日(日)に滋賀県の琵琶湖湖畔で開催された「第39回鳥人間コンテスト2016」に出場しました。



出場に至るまでには、「機体設計図」や「企画書類」等の書類審査を経て、滑空機部門に出場することとなり、創

部から6回目の出場となりました。

大会に向けて、これまでの飛行データを元にし、機体を製作し、試走や飛行練習を経て、本番に臨みました。

当日は、天候に恵まれ、風向、風速ともにコンディション良好な中、パイロットの掛け声を契機にスタートを切りました。飛び出し角度は良かったものの、乗り込みに手間取り、その間に機体が失速し大きく左傾してしまい左翼から湖面に墜落し、結果は60.57mの飛行となりました。

本年度の反省をもとに新たな気持ちで挑戦を続け記録更新を目指します。

鳥人間を目指す飛行機研究会ホームページ : <http://sistsky.web.fc2.com/>

「全日本学生フォーミュラ大会」への出場

第14回全日本学生フォーミュラ大会が、平成28年9月6日(火)~10日(土)の5日間、エコパ(静岡県小笠山総合公園運動公園)で開催され、本学自動車部(SIST formula Project)がICV部門(ガソリン自動車)、EV部門(電気自動車)に参戦しました。

本大会は2003年からスタートし、学生自らが構想・設計・製作をした車両の加速やハンドリングなどの走行性に加え、車両コンセプトや設計、製造なども審査項目とされる、ものづくりの総合力を競う大会です。

部員は、この大会のために、活動を行い1年かけて車両を製作し、本番に臨みました。ICV車は車検・静的審査を通過し、動的審査に進みましたが、エンデュランスでアクセル不調により、途中リタイヤとなりました。一方、EV車は第11回大会から続く、部門4連

覇を目指しましたが、電気車検のレインテストでの不具合を解消できず、リタイヤとなりました。両部門とも、掲げた目標を達成することは叶いませんでしたが、学生にとっては、課題発見、解決の難しさ、コミュニケーションと連携の重要性を学んだ大会となったと思います。



この経験をバネにし、今後の飛躍に繋げていくことを期待しています。

SIST formula Project ホームページ : <http://www.sist.ac.jp/club/f-sae/>

平成28年度 学部長表彰・奨励賞表彰

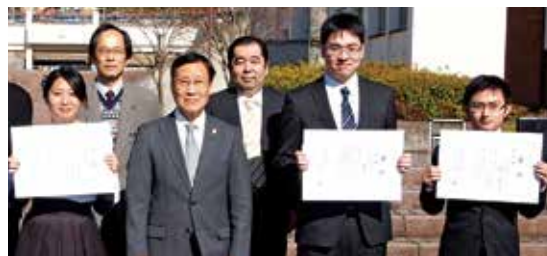
優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生を表彰する「学部長表彰」「奨励賞表彰」を行いました。受賞者は次の通りです。

学部長
表彰

●個人 **荒井 萌希さん**(人間情報デザイン学科4年)
第60回東海学生弓道秋季女子リーグ戦
女子個人 第8位

奨励賞
表彰

●個人 **渡辺 富夫さん**(理工学研究科材料科学専攻2年)
公益社団法人応用物理学会 ポスター賞
●個人 **藤田 浩享さん**(理工学研究科材料科学専攻2年)
公益社団法人応用物理学会 ポスター賞



サークル紹介

科学実験工房

部長 **清水 雅大さん** (物質生命科学科3年)

私達科学実験工房は、科学を楽しむ団体です。主な活動は、部員が興味を持った実験を行ったり、イベントに参加したりすることです。

これまでの活動は、未就学児から小学生を対象として、「袋井市豊沢ふれあい会館」、「静岡市科学館・く・る」、「オープンキャンパス」、「大学祭」、などのイベントに参加してきました。「スライム作り」や「入浴剤の作成」のような簡単な実験から、鉄を生成する「テルミット反応」や、液体窒素と超

伝導体を使った「マイスナー効果の実験」などの高度な実験にも取り組んできました。科学実験を楽しみ様々な実験に挑戦することや、子供たち

への実験指導で、自分たちの興味の幅を広げ、スキルアップを目指す活動を今後も続けて行きます。



スポットライト がんばる理工科大生



木村 充伯さん(写真一番左)
(機械工学科4年)

私はM.C.F.(Machine Creator's Factory)という、ものづくりを学生主体で行う部活動に所属し、部長を務めました。4年間、キャッチロボバトルコンテストやマイクロマウスなど、多くのロボット大会に出場しました。

M.C.F.の活動は衰退傾向にありましたが、私達が4年の年月をかけ、様々な大会で経験を積み、もりあげてきて、ようやくNHK学生ロボットコンテスト2016出場まで来ることが出来ました。これは、前年度まで部員をリードしてくれた先輩方の功績が大きいのももちろんですが、向上心が強く、能動的に活動してきた現部員の、努力あつての結果でもあると考えております。

結果は本戦の予選リーグ敗退でしたが、学ぶものが多く、いい経験になりました。しかし、M.C.F.に足りないものを明確にしたのも事実です。私はもう引退しましたが、次はこれまでの反省点や経験を踏まえたうえで工夫し、更に向上していく力を身に付けて欲しいです。

今回のNHK学生ロボットコンテスト2016出場に際し、激励会を開いて下さった袋井市の皆様、活動を行うにあたり御支援頂きました静岡理工科大学の教職員ならびに学生の皆様、差し入れや御声援頂きましたOBの皆様、生活面でサポート頂きました親族に、ここに改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後とも変わらぬ御声援をよろしく願います。

最後に、在学生の皆様、失敗を恐れず様々なことに挑戦してください。

編集後記

「建築学科棟えんつりー」の完成が近づき、真新しい校舎の姿がキャンパスの緑に映え、輝いて見える今日この頃です。学生の皆さんや、静岡理工科大学に入学を希望される方には、自分とは異なる経験や背景を持った人々との出会い、互いに教え合いながら勉強し、スポーツ・サークル・ボランティア等で楽しみを分かち合うことで、充実した学生生活を送ってほしいと願っています。(N)

静岡理工科大学キャンパスニュース

平成 29 年 2 月 15 日発行

企画・編集・発行／静岡理工科大学 大学広報委員会

〒 437-8555 静岡県袋井市豊沢 2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@sist.ac.jp

